# 第6章 神明後遺跡第51地点の本調査

## I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12~16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋 敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開 設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1987年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2015年12月現在、54ヶ所で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半から後期前半の 住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物 跡などの遺構を検出した。

## Ⅱ 本調査に至る経過と調査の概要

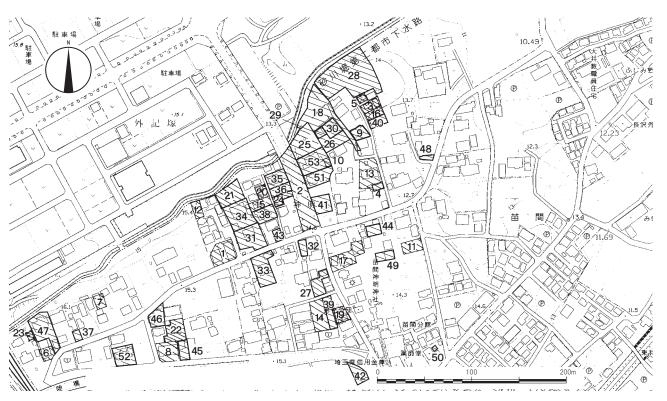
## (1)調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2014年9月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」 がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡 の範囲内に位置している。申請者と協議の結果、遺構 の存在を確認するために試掘調査を実施した。

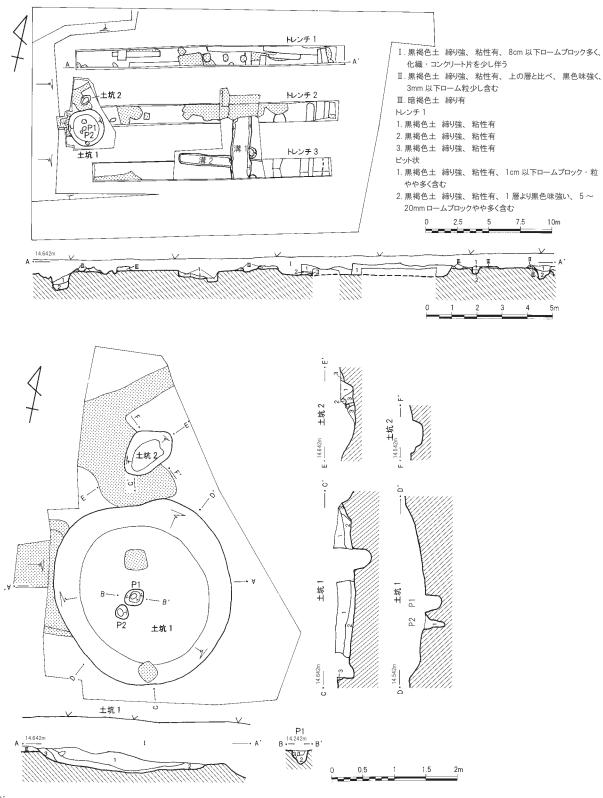
試掘調査は2014年11月5日~13日、幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、現地表面から30~50cmの深さで縄文時代の住居跡か土坑とみられるプランを確認した。原因者と再協議の結果、遺跡への影響が避けられないため、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は遺跡の確認された部分を、2014年11月20日から25日まで人力による調査を行い、同日重機で埋め戻して全ての調査を終了した。

試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代の 土坑2基、中近世以降の溝2本などである。遺物は縄 文土器等である。



第61図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



A-A' · C-C'

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調黄灰色味有り、1mm 以下ローム粒均一に少し、同 焼土・炭化物僅かに、焼礫含む
- 2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し含む、上部に黒色土、下部に  $5\sim 30$ mm ロームプロックを多く含み、 斑状を呈する
- 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、地山より暗め、2mm 以下黒色粒・ローム 粒少し含む

В-В'

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 層より黒色味が有り、5  $\sim$  20mm ロームブロック多く含む
- 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、地山のローム土と比べ暗色

- D-D'
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調やや明るい、5mm 未満ローム粒多く含む  $E-E'\cdot F-F'$
- 1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1mm 黒色粒・1mm 以下ローム粒僅かに含む
- 2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し含む
- 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、うっすら斑状に暗黄灰色土をやや多く含む

Ⅲ 遺構と遺物 83

#### Ⅲ 遺構と遺物

# ①土坑

土坑1・2は調査区の西端、地形的には北側のさかい川に向かう緩い斜面に位置する。覆土層の観察から縄文時代とみられる。

【土坑 1】平面形態は円形を呈する。確認面径は 295 × 275 cm、底径 228 × 194 cm、深さ 39.1 cmである。底部中央にピットが 2 基ある。ピット 1 は方形で確認面径 33 × 25 cm、底径 16 cm、深さ 32.7 cmである。ピット 2 は円形で確認面径 12 × 7 cm、底径 16 cm、深さ 36.4 cmである。

【土坑2】平面形態は楕円形を呈する。確認面径は90

imes 62 cm、底径 60 imes 32 cm、深さ 26.5 cmである。

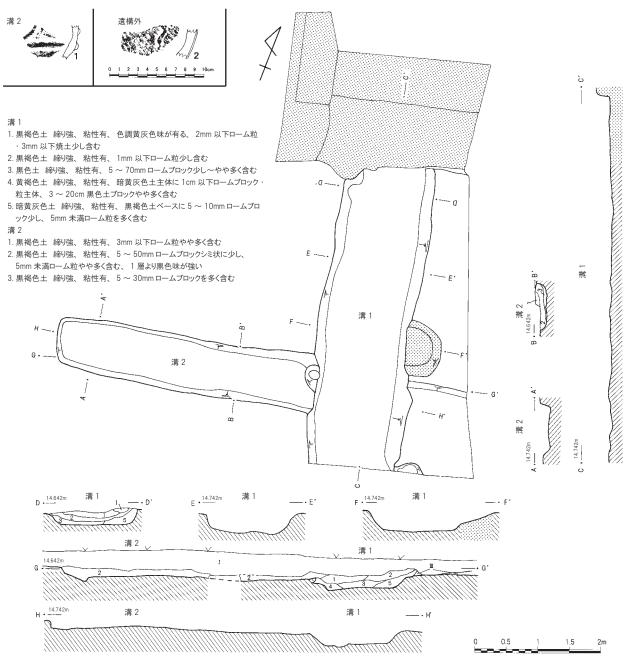
#### ②溝

【溝 1】溝 1 は南北方向に延び、断面は浅い「∪」字形で、 規模は上幅 135 ~ 154 cm、下幅 98 ~ 120 cm、深さ 19.2 ~ 32.9 cmである。

【溝 2】溝 2 は東西方向に延び、溝 1 より新しい。断面は浅い「 $\cup$ 」字形で、規模は上幅  $70 \sim 95$  cm、下幅  $60 \sim 73$  cm、深さ  $10.1 \sim 16.9$  cmである。

# ③遺物

1 は溝2で隆帯により口縁部文様帯と頸部の無文帯を作り出す。2 は表土一括で、地文縄文に隆帯の蛇行懸垂文を貼付。ともに加曽利 E I 式。



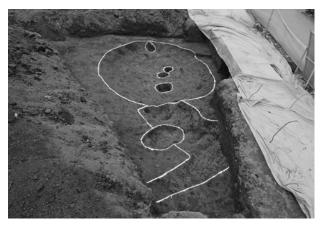
第 63 図 神明後遺跡第 51 地点溝 1・2(1/60)、出土遺物 (1/4)



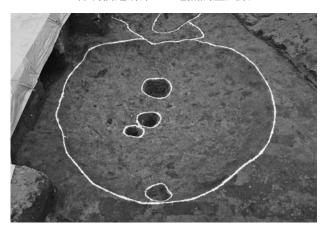
神明後遺跡第51地点調査風景



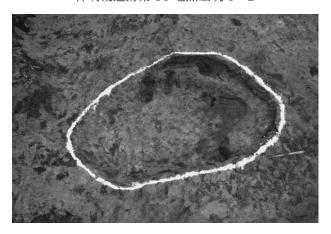
神明後遺跡第51地点調査風景



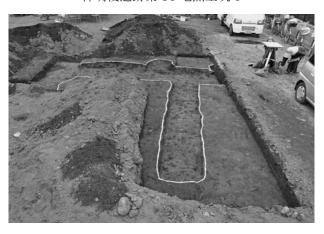
神明後遺跡第51地点土坑1・2



神明後遺跡第51地点土坑1



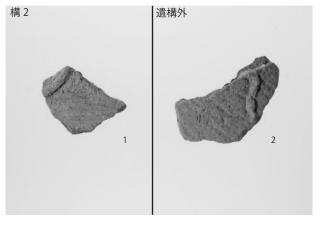
神明後遺跡第51地点土坑2



神明後遺跡第51地点溝1・2



神明後遺跡第51地点溝1・2



神明後遺跡第51地点出土遺物